

ミクロナニカル分布からの Bose 分布関数、Fermi 分布関数の導出

ミクロナニカル分布からボーズ分布関数とフェルミ分布関数を導く。

1 統計的重率

全エネルギー E 、全粒子数 N を、

$$E = \sum_j \varepsilon_j N_j, \quad N = \sum_j N_j$$

と書き、この式条件の許でエントロピー

$$S = k_B \log W$$

を最大にすることを考える。ここで W は統計的重率で、

$$W = \prod_j p_j$$

であり、ボルツマンの原理が成りたっているものとする。統計的重率はボーズ粒子の場合同じ状態にいくらでも入ることができるので、

$$W_b = \prod_j p_j = \prod_j \frac{(C_j + N_j - 1)!}{N_j! (C_j - 1)!} \quad (1)$$

であり、フェルミ粒子の場合は排他律より、

$$W_f = \prod_j p_j = \prod_j \frac{C_j!}{N_j! (C_j - N_j)!} \quad (2)$$

である。

2 エントロピーが最大となるとき

エントロピーを最大にするということは $\log W$ を最大にすることと同じである。これより $\log W$ が極大値をとる点を考えることにする。微分によっても求めることは可能であるが、ここでは変分をとって求めてみることにする。

2.1 ボーズ粒子

まずボーズ粒子の場合を考える。Eq.(1) で C_j, N_j は壱に比べて十分大きいとしているので、分子分母にある -1 を無視できる。よって、この式の自然対数をとリスターリングの公式

$$\log M! = M \log M - M$$

を適用すると、

$$\begin{aligned}\log W_b &= \sum_j \left\{ (C_j + N_j) [\log(C_j + N_j) - 1] - N_j (\log N_j - 1) - C_j (\log C_j - 1) \right\} \\ &= \sum_j \left[(C_j + N_j) \log(C_j + N_j) - N_j \log N_j - C_j \log C_j \right]\end{aligned}\quad (3)$$

となる。 $N_j \rightarrow N_j + \delta N_j$ の変分を考えると、

$$\begin{aligned}\delta \left[(C_j + N_j) \log(C_j + N_j) - N_j \log N_j - C_j \log C_j \right] \\ &= \left[(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) \log(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) - \{N_j + \delta N_j\} \log \{N_j + \delta N_j\} - C_j \log C_j \right] \\ &\quad - \left[(C_j + N_j) \log(C_j + N_j) - N_j \log N_j - C_j \log C_j \right] \\ &= \left[(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) \log(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) - \{N_j + \delta N_j\} \log \{N_j + \delta N_j\} \right] - \left[(C_j + N_j) \log(C_j + N_j) - N_j \log N_j \right]\end{aligned}$$

と書けるが、 x が十分小さいときに成り立つ、 $\log(1+x) \cong x$ なる関係式を使うと、 δN_j の二次以上を無視して、

$$\begin{aligned}(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) \log(C_j + \{N_j + \delta N_j\}) &= (\{C_j + N_j\} + \delta N_j) \log \left[(C_j + N_j) \left(1 + \frac{\delta N_j}{C_j + N_j} \right) \right] \\ &= (C_j + N_j) \log(C_j + N_j) + \delta N_j \log(C_j + N_j) + \delta N_j \\ (N_j + \delta N_j) \log(N_j + \delta N_j) &= (N_j + \delta N_j) \log \left[N_j \left(1 + \frac{\delta N_j}{N_j} \right) \right] = N_j \log N_j + \delta N_j \log N_j + \delta N_j\end{aligned}$$

となるので、結局

$$\begin{aligned}\delta \left[(C_j + N_j) \log(C_j + N_j) - N_j \log N_j - C_j \log C_j \right] &= \delta N_j \log(C_j + N_j) + \delta N_j - \delta N_j \log N_j - \delta N_j \\ &= [\log(C_j + N_j) - \log N_j] \delta N_j\end{aligned}$$

を得る。よって

$$\delta(\log W_b) = \sum_j [\log(C_j + N_j) - \log N_j] \delta N_j \quad (4)$$

が得られる。 N_j の変分をとる際、 N, E は一定であるので、

$$\sum_j \delta N_j = 0 \quad (5)$$

$$\sum_j \varepsilon_j \delta N_j = 0 \quad (6)$$

の条件が成り立つ。エントロピーが極大をとる条件は、Eq.(4) が零でなければならないので、ラグランジュの未定乗数法により、 α, β を任意の定数として、Eq.(4) - $\alpha \times$ Eq.(5) - $\beta \times$ Eq.(6) を作ると、

$$\sum_j [\log(C_j + N_j) - \log N_j - \alpha - \beta \varepsilon_j] \delta N_j = 0$$

が得られ、 δN_j の係数を零とおいて

$$\log \frac{C_j + N_j}{N_j} = \alpha + \beta \varepsilon_j, \quad \therefore \frac{C_j}{N_j} = \exp[\alpha + \beta \varepsilon_j] - 1 \quad (7)$$

となる。即ち、

$$\frac{N_j}{C_j} = \frac{1}{\exp[\alpha + \beta \varepsilon_j] - 1} \quad (8)$$

であることが分かる。

2.2 フェルミ粒子

次にフェルミ粒子について考える。Eq.(2)の両辺の自然対数を取り、スターリングの公式を適応させると、

$$\log W_f = \sum_j \left[C_j \log C_j - (C_j - N_j) \log (C_j - N_j) - N_j \log N_j \right] \quad (9)$$

となる。ボーズ粒子の場合と同様に $N_j \rightarrow N_j + \delta N_j$ の変分を考えると、

$$\begin{aligned} \sum_j \left[C_j \log C_j - (C_j - N_j) \log (C_j - N_j) - N_j \log N_j \right] &= \delta N_j \log (C_j - N_j) + \delta N_j - \delta N_j \log N_j - \delta N_j \\ &= \left[\log (C_j - N_j) - \log N_j \right] \delta N_j \end{aligned}$$

であるから、

$$\delta (\log W_f) = \sum_j \left[\log (C_j - N_j) - \log N_j \right] \delta N_j \quad (10)$$

を得る。Eq.(10)より、ボーズ粒子の場合と同じようにラグランジュの未定乗数法を用いると

$$\sum_j \left[\log (C_j - N_j) - \log N_j - \alpha - \beta \varepsilon_j \right] \delta N_j = 0$$

となり、

$$\log \frac{C_j - N_j}{N_j} = \alpha + \beta \varepsilon_j, \quad \therefore \frac{C_j}{N_j} = \exp [\alpha + \beta \varepsilon_j] + 1 \quad (11)$$

となる。即ち、

$$\frac{N_j}{C_j} = \frac{1}{\exp [\alpha + \beta \varepsilon_j] + 1} \quad (12)$$

を得る。

以上より、ボーズ分布、フェルミ分布は

$$\frac{N_j}{C_j} = \begin{cases} \frac{1}{\exp [\alpha + \beta \varepsilon_j] - 1} & : \text{ボーズ分布} \\ \frac{1}{\exp [\alpha + \beta \varepsilon_j] + 1} & : \text{フェルミ分布} \end{cases} \quad (13)$$

で表されることが分かる。

3 、 の物理的な意味

α, β は条件 Eq.(5),(6) を満たすように任意の定数としたので、この任意定数の物理的な意味を調べる必要がある。

3.1 の物理的な意味

β は、Eq.(13) で分母の ± 1 を無視すると、

$$\frac{N_j}{C_j} = \exp [-\alpha - \beta \varepsilon_j] \quad (14)$$

となり、これはボルツマン因子であることが分かるので、これより $\beta = 1/(k_B T)$ であることが分かる。

3.2 の物理的な意味

α の意味を調べる為に、系の体積 V を一定に保ち、 $\alpha \rightarrow \alpha + \delta\alpha, \beta \rightarrow \beta + \delta\beta$ と変化させ、これに伴う $\log W$ の変化を考える。この変化による N_j の変分を dN_j とすれば、ボーズ粒子の場合 Eq.(4) の δ を d に置き換えて、

$$\delta(\log W_b) = \sum_j [\log(C_j + N_j) - \log N_j] dN_j \quad (15)$$

が得られるが、これに Eq.(7) を代入すると

$$d(\log W_b) = \sum_j (\alpha dN_j + \beta \varepsilon_j dN_j) = \alpha dN + \beta dE \quad (16)$$

を得る。同様にフェルミ統計の場合、Eq.(10) の δ を d に置き換えて、

$$d(\log W_f) = \sum_j [\log(C_j - N_j) - \log N_j] dN_j \quad (17)$$

が得られ、これに Eq.(11) を代入すると、

$$d(\log W_f) = \sum_j (\alpha dN_j + \beta \varepsilon_j dN_j) = \alpha dN + \beta dE \quad (18)$$

を得る。これよりボーズ統計、フェルミ統計に依らず、

$$d(\log W) = \alpha dN + \beta dE \quad (19)$$

であることが分かる。熱力学第壹法則に依れば、内部エネルギーの変分 dU は一般に、

$$dU = -p dV + T dS + \mu dN \quad (20)$$

で表される。ここで、Eq.(19) を、

$$dE = \frac{1}{\beta} d(\log W) - \frac{\alpha}{\beta} dN \quad (21)$$

と書き直す。体積を一定としたので Eq.(20) で $dV = 0$ としてよく、また、 $\beta = 1/(k_B T)$ であること、内部エネルギー U と全エネルギー E は同じものであることに留意して Eq.(20) と Eq.(21) を比較すると、

$$\alpha = -\beta\mu$$

の関係が得られる。

4 ボーズ分布関数、フェルミ分布関数

以上よりボーズ分布、フェルミ分布はそれぞれ結局、

$$\langle n_j \rangle_{\text{Bose}} = \frac{N_j}{C_j} = \frac{1}{\exp\left[\frac{\varepsilon_j - \mu}{k_B T}\right] - 1} \quad : \text{Bose-Einstein の分布関数} \quad (22)$$

$$\langle n_j \rangle_{\text{Fermi}} = \frac{N_j}{C_j} = \frac{1}{\exp\left[\frac{\varepsilon_j - \mu}{k_B T}\right] + 1} \quad : \text{Fermi-Dirac の分布関数} \quad (23)$$

で表される。